

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス西宮たんぼぼ わたぼうし		
○保護者評価実施期間	2025年10月28日		～ 2025年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2025年10月28日		～ 2025年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活に即したこどもの「実体験」を大切にしたいプログラムを行っている。	庭の畑で植物を育て、併設しているカフェの材料に使用。毎日自分たちが食べるおやつを手作りしている。調理やカフェに必要な材料を、地域の八百屋さん等で購入するお買い物体験をしている。地域の方や自分たちが使った部屋を、毎日自分たちの手で掃除をしている。	実体験が、こどもたちの日常や将来により生かせるものとなるよう、プログラム内容の充実を図る。具体的な取り組みとして、法人内の管理栄養士と療育者が共に、おやつ作りのメニューや調理方法を考え、こどもたちの活動を深めていく。
2	保護者の方とのコミュニケーションの機会が多い。	保護者に送迎をお願いしているため、実際に顔を見ながらのこまやかなやりとりができている。連絡帳や公式ライン等でのやりとりも行っている。	実際にお会いしてのコミュニケーション、連絡帳、公式ライン等コミュニケーションの手段が多く、きめ細かな対応が可能であるという利点を生かし、よりこどもやご家族の生活が充実したものとなるよう、ご相談していただきやすいコミュニケーションを心がけていく。
3	地域の方や、異年齢の子とのかかわりがある。	地域開放スペースの中で療育を行っており、地域の方と日常的に接する機会をもつことができる。小集団活動をメインとしているため、小学生～中学生のこどもたちが異年齢のかかわりを行うことができる。こども食堂、ひだまり親子探検、火を囲む会、秋まつりなど地域の方と共に行う活動が多い。児童発達支援、小規模保育施設が併設しており、小さなこどもたちとの交流がある。	地域に開かれた法人であることや、法人内に児童発達支援、小規模保育施設があることの強みを生かし、こどもたちがより積極的に地域の方や異年齢のこどもたちとの交流がもてるようなプログラム内容を練っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活空間の使い方。	今年度初めて1階の地域開放スペースでの療育を開始し、日々改善しながら、より過ごしやすい生活空間を整えている最中。	児童発達支援のプレイルームを使用することで思い切り身体を動かせる空間を確保したり、1階スペースの動線を工夫したり、個別でも落ち着て過ごせる環境を整えたりし、よりこどもたち一人ひとりが、それぞれの状態に応じた快適な生活空間を確保できるようにしていく。
2	活動プログラムの立案をチームで行う。	チーム一人ひとりの持ち味、つよみを生かしたプログラムの立案ができれば、さらに療育内容が充実できる。	月ごとにおやつメニューを分担して考えたり、日々の療育で個々が感じた改善点が反映されるようなしくみを作ること、チームで療育の底上げができるようにしていく。
3	たんぼぼの様子をより保護者に知っていただく(保護者へのマニュアル等の周知の発信方法。療育の様子等を知っていただく機会)。	今年度は、実際に療育を見ていただく機会を持ってなかつた。マニュアル等の周知の仕方が整っていない。	保護者に療育をご一緒に体験していただく機会を設け、実際の様子を見ていただけるようにする。マニュアルの閲覧方法について検討し、発信の仕方を整えていく。